

# 大学憲章に基づくプロジェクト事業

## ◆教育

### ①「人間力・学士力養成プログラム」

鹿児島大学憲章では、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養い、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍する人材の育成を目指している。

また、鹿児島大学では、幕末から明治期における薩摩の志士たちのように、進取の精神を培い、進取の気風を身に付けた人材の育成を目指している。これを達成するためには、もう一度地元鹿児島を歴史、文化、自然、風土、産業などの視点で見直し、地域学習・体験、ボランティア活動と海外研修などを通して、若い学生諸君の英知と行動力を呼び起こし、新しい日本社会のあるべき姿を模索し、世界に発信していきたいと考えている。この目的を達成するために共通教育と基礎教育を再構築し、専門教育へとつないで二十一世紀型市民を養成する。

これまでに、人間力の養成を主眼として、後掲の「地域の特性を活かした進取の気風を養う教養科目群」、「ボランティア論」を始めとするボランティア活動に必要な、知識・資格・ノウハウに関する科目、能力開発科目、倫理関連科目、海外体験科目などにより、人間力・学士力養成プログラムを構築するための科目開発を行ってきた。

平成23年度には、学生の自己実現に重きをおきつつ、自発や利他の心情の醸成はもちろん、具体的に地域社会や人々と交流して、地域や人々を支援する活動を主体的に行い、地域社会に役立つ成果を得るとともに、活動の意義を見つめ、自分の知恵・知識・判断力・行動力などを更に発展させる必要性を明確に自覚させることを目的として、共通教育課程の人間力養成プログラムとして完成する。



▲教養科目「海外研修基礎コース」で Saint Mary's College of Californiaを訪問

### ②「地域の特性を活かした進取の気風を養う教養科目群」

鹿児島大学は、鹿児島の政治、経済、文化、医療、産業、科学、地理・風土等々、多くの分野で地域を研究し、その成果を蓄積してきており、その知見を教育に反映し、「鹿児島の中に世界をみる教養科目群」を構築して、大学憲章を具現化してきた。そこでは鹿児島という地域に固有の情報提供にとどまらず、鹿児島を科学的視野で理解し、そこに内在する本質を見抜く力、さらに鹿児島から世界を理解する力を養成することがこの教育の特徴である。

この教養科目群は、ボランティア教育や国際体験科目などと連携し、人間力養成プログラムの一翼を担う、進取の気風を養う教養教育で、「鹿児島探訪」講義シリーズ10科目、体験シリーズ15科目、発展科目12科目からなり、毎年約2700名以上の学生が受講している。

現在、地域の特性を活かす教育理念は更に発展し、鹿児島県の他の高等教育機関や地方自治体・企業・民間組織等に働きかけて、平成21年度から県内の大学生等が受講できる「グローバル教養教育」を開講し、さらにはICTを活用した授業支援を充実させてきた。戦略GPによる支援が終了した平成23年度からは、「大学地域コンソーシアム鹿児島」が受け皿となり、グローバル教養教育を継承する。



▲戦略GP「かごしまフィールドスクール」でのグループ発表

#### 「鹿児島の中に世界をみる教養科目群」の教育コンセプト

鹿児島大学の地域研究＋専門的職業人、鹿児島県、NPO

地域を素材に

自然と社会の本質と普遍性

国際的時空における個性ある教養の構築  
社会と歴史認識に基づく展望の構築

基礎的能力の着実な涵養

教養ある専門家への動機づけ

21世紀型地球市民養成

地域貢献

国際貢献

## ◆研究・社会貢献

### ①「鹿児島環境学プロジェクト」

平成20年度から「鹿児島環境学」プロジェクトを始めて4年目になった。このプロジェクトは、現代の最大の課題である環境問題について屋久島や奄美などのフィールドを生かした研究を進め、鹿児島大学から全国への情報発信や政策提言を積極的に行うことを狙いとしている。

研究成果は毎年市販の刊行物としてとりまとめ、平成21、22年度には「鹿児島環境学I、II」「鹿児島環境キーワード事典」を出版した。今年の夏には「鹿児島環境学III」を出版する予定である。

毎年イベントも実施している。平成23年1月には徳之島において学長も参加して徳之島フォーラムを開催した。社会に開かれたプロジェクトを目指し、鹿児島大学教員の他、マスコミ、県庁、通訳会社主催者などもワーキングメンバーに加わっている。23年4月から同メンバーによる大学院での環境コース授業を開始するなど、研究教育面でのさらなる充実を企画している。



▲徳之島フォーラム  
(平成23年1月10日 徳之島伊仙町にて開催)

### ②「島嶼プロジェクト」～豊かな島嶼の発展のために～

国内外島嶼地域の自律的で豊かな発展のため、国際島嶼教育研究センターが中心となって学内外の様々な分野の研究者と連携し、鹿児島の島々及びその周辺の連続的島嶼や太平洋の島々における人・社会・陸域生態系・海域生態系の領域を総合した調査研究を行っている。特に地球温暖化やグローバル化の影響で社会的課題を抱えている太平洋島嶼への学術的貢献では、グアム大学・ハワイ大学・南太平洋大学・ミクロネシア短期大学等とも連携しながら学融的研究を進めている。また南北に長い鹿児島の列島域は、特に地球温暖化などのセンサーゾーン研究拠点としての利点があり、文化的・生態系的個性と連続性が多様に存在する地域である。その発展には島間連携と個性再認識が大切であることから、地域関係機関や地元研究者との連携を強化した貢献を目指している。新組織として、改組前組織である多島圏研究センターの実績を継承発展しつつ、島嶼に関する教育体制の確立にも努めており、平成22年度後期から大学院全学横断的教育プログラム「島嶼学教育コース」を開設した。



▲ミクロネシア連邦コスラエ島での聞き取り調査

### ③「地域と大学のローカルシンフォニー」～地域社会の発展と活性化のための大学地域貢献～

このプロジェクトは、様々な地域課題(ここでは、広く生活・文化・健康等の願いを含めている)を解決するために、①大学と市民とが共同の取り組みや調査研究を行い、②大学は蓄積した研究を背景に特別講座を提供し、③学生はそれぞれに参画して実体験して学ぶことを進める。また、④地域の行政や人々は、これを受け止めるネットワークを形成して、研究者や学生と共に学び行動していただくことをお願いしている。これは、地域と大学とが、共同学習・共同研究で響きあうプロジェクトである。また、研究、教育、地域貢献が三位一体となって推進されるプロジェクトである。

平成20年度に開始されたこの企画は、与論町と指宿市を中心に実施してきたが、熱心なご要望を受け止めて平成22年度からは、鹿屋市と大崎町でも実施するなど自治体の受入体制も整ってきている。このプロジェクトは、自治体と地域のみなさんのご協力を得て、大学地域貢献のモデルづくりを志向する企画でもある。

